

2007年度の外科スタッフは2名でスタートしたが、7月に1名増員し、3月末までは3名で、診療にあたった。

手術件数は前年度の163例に対し142例と減少した。

内訳では局麻手術が8例減少した。外来に処置室を増設したため、従来手術室で行っていた局麻下皮下腫瘍摘出術が、外来でも可能となり、手術室での腫瘍摘出は9例にとどまった。一方2007年度から、癌化学療法の症例が増え、抗悪性腫瘍治療剤静脈持続注入用埋込型カテーテル（IVポート）設置術を6例行った。

腰麻手術8例の減少は虫垂炎手術の症例数の差である。

鼠径ヘルニア手術ではDIRECT KUGELを用いた術式に変更した。

全麻手術は、前年に比し5例減少した。乳癌は3例増加し、胃・胆嚢に関しては前年とほぼ同数であったが、大腸癌が5例減少した。

内容的には1例ではあるが腹腔鏡補助下結腸切除術を施行した。2008年度はハーモニックの購入を予定しており、鏡視下手術の増加を期待したい。

フルタイムの緊急手術対応は出来なかったが、可能な限り対応を行い、緊急手術症例数は2006年度の28例には及ばないものの21例行った。

総括すると、各項目横ばいないしは減少といったところでやや不本意な数字である。

	2005			2006			2007		
	局麻	腰麻	全麻	局麻	腰麻	全麻	局麻	腰麻	全麻
甲 状 腺	0	0	1	0	0	2	0	0	0
皮 下 腫 瘍 摘 出	38	0	0	25	0	0	9	0	0
I V ポ ー ト	0	0	0	0	0	0	6	0	0
Auchincloss	0	0	7	0	0	1	0	0	4
胃 全 摘	0	0	2	0	0	4	0	0	3
胃 切 除	0	0	5	0	0	6	0	0	6
汎 発 性 腹 膜 術	0	0	3(3)	0	0	2(2)	0	0	4(4)
結 腸 切 除 術	0	0	0	0	0	14(3)	0	0	7(3)
低 位 前 方 切 除 術	0	0	7	0	0	1	0	0	5
腹 会 陰 式 直 腸 切 断	0	0	0	0	0	3	0	0	0
腹 腔 鏡 補 助 下 結 腸 切 除 術	0	0	1	0	0	0	0	0	1
イ レ ウ ス	0	0	5(1)	0	0	7(3)	0	0	7(4)
虫 垂 炎	0	2(2)	2(1)	0	9(8)	7(6)	0	3(2)	8(5)
痔 核	0	1	0	0	4	0	0	4	0
肝 切 除	0	0	0	0	0	2	0	0	1
開 腹 胆 摘	0	0	3	0	0	3(1)	0	0	3(1)
腹 腔 鏡 下 胆 嚢 摘 出 術	0	0	19	0	0	40(6)	0	0	38
鼠 径 ・ 大 腿 ヘル ニ ア	0	21	3(1)	0	17	3	0	15	4
そ の 他 の ヘル ニ ア	0	0	4(1)	0	0	3	0	0	6
そ の 他 の 手 術	0	6	12(3)	0	0	10	2(2)	0	6
合 計	38	29	74	25	30	108	17	22	103

()は緊急手術数